

カトリック香里教会 四旬節第1主日 2021年2月21日

[そのとき、]「霊」はイエスを荒れ野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒にいられたが、天使たちが仕えていた。

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。 —マルコ1章—

初心に帰る

四旬節は、復活祭を迎える準備として、祈りと断食によって行われますが、キリストの断食にちなんで40日間行われるようになり、四旬節と呼ばれるようになりました。

その典礼は、特に洗礼志願者のために考慮して聖書朗読箇所が選ばれています。



洗礼とは、かつてノアの洪水によって罪を滅ぼした水によって、悪霊の支配下で生きていた私たちの自我が死ぬことを意味し、新しく生まれ変わって聖霊が与える命の水によって神の支配下で生きる人となることです。

人が肉に生きて、悪霊の支配下で生きていた囚われから解放される道を教えるために、主イエスは荒れ野に赴き、祈りと断食によって悪霊を退ける

道を教えました。この意味を持つ洗礼によって人は、悪霊から解放され、新しい人とされるのです。断食によって人の自我に住み着く悪霊との関りを断ち、祈りによって神とつながる道です。そしてこの二つを可能にする援護者が日々の愛の行為なのです。

私たちキリスト者は、かつて洪水を潜り抜けて、富の山から神の山へと歩み始めたあの恵みを思い起こし、初心に帰りましょう。道を探している洗礼志願者の案内者、同伴者であるために。

